2022 年度

東北学院大学

コミュニティソーシャルワーカー（ＣＳＷ）

スキルアッププログラム

（履修証明プログラム）

自己点検・評価報告書

2023 年 4 月

東北学院大学

地域連携センター

1. はじめに

東北学院大学（以下、「本学」という）は、1886 年創設の「仙台神学校」を母体とし、前身となる「東北学院」を経て（1891 年改称)、1949 年に設置された。設置以来、福音主義キリスト教の精神に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」という建学の精神を堅持、具現化する努力を続け、今日に至るまで、地域社会の発展に貢献しうる人材の育成に寄与してきた。現在は東北地方を代表する私立総合大学として、累計 18 万人を超える卒業生を輩出している。

本学は設立以来、地域連携・社会貢献を、その重要な使命の一つとして位置づけてきた。2014 年、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択され、その取り組みをもとに、学卒者養成のみならず、地域社会の活性化、地域福祉の充実を担いうる社会人教育を実践するため、2016 年度に「コミュニティソーシャルワーカー（ＣＳＷ）スキルアッププログラム」（以下、「ＣＳＷスキルアッププログラム」または「本プログラム」という）を開設した。2022 年度に開講 7 年目を迎えた本プログラムの自己点検・評価結果を、本報告書にまとめた。

2. コミュニティソーシャルワーカー（ＣＳＷ）スキルアッププログラムとは

地域福祉・社会福祉現場の課題に直結する本格的、実践的な授業内容を通して、まちづくりのキーパーソンであるコミュニティソーシャルワーカー（ＣＳＷ）のスキルアップを目指す教育プログラムである。

ＣＳＷスキルアッププログラムは、本学の重要な使命の一つである、地域連携・社会貢献に寄与すべく、学校教育法第 105 条及び学校教育法施行細則第 164 条に基づき、2016 年 4 月より履修証明プログラムとして開講している。開設以来、宮城県内の社会福祉、地域福祉分野に従事する社会人を中心に受講生を受け入れ、2022 年度末時点で、累計修了者数は 70 名を超えた。

なお、本プログラムは、2016 年度の開設時より文部科学省「職業実践力育成プログラム（ＢＰ)」に認定されている。

3. 教育プログラム等の内容

ＣＳＷスキルアッププログラムは、その開講科目を、基礎科目、必須理論、実践技法、特論演習、事例研究の５つに分類し、体系的、かつ包括的な内容になるようプログラムを構築している。上述の科目分類のうち、基礎科目及び必須理論を構成する科目群は必修科目とする一方、実践技法、特論演習及び事例研究の科目群については選択科目として設置し、受講生の興味・関心に応じた履修を可能にしている。また、プログラム全体のおおよそ中間時に「中間報告会」、最終科目に「最終報告会」を設け、それぞれの段階における修得度等を測定している。

(1) 受講要件

本プログラムは、以下の２つを受講要件として定めている。

① 高等学校、または中等教育学校を卒業した者。または、大学を受験できる資格を取得した者。

② 社会福祉協議会に関わる職員。ただし、地域づくりに貢献したいと考える方の受講も可能。

※社会福祉分野における就業経験等を持たない場合でも、地域づくりに貢献したいという意思を持つ者については、受講可否判定のうえ受講を認めている。そのため、十分な受講意思・意欲等があると判断された場合、大学生等の受講も可能。

(2) カリキュラム

2022 年度は、必修科目 19 科目（57 時間）、選択科目 30 科目（90 時間）の計 49 科目（147 時間）によるカリキュラムを構築した。設置科目の具体的な内容は、次表記載の通りである。

2022 年度　開講科目・担当講師一覧（講師の所属等は 2022 年 3 月（受講生募集）時点）

科目分類		科目名	担当講師	担当講師所属	時数
必修科目	基礎科目	地域福祉の時代とコミュニティソ―シャルワ―ク	阿部　重樹	学校法人東北学院	3
		コミュニティソ―シャルワ―クⅠ	村山　くみ	東北福祉大学総合福祉学部	3
		コミュニティソ―シャルワ―クⅡ	村山　くみ	東北福祉大学総合福祉学部	3
		ケ―スワ―ク	竹之内　章代	東北福祉大学総合福祉学部	3
		社会保障制度の新たな動向Ⅰ	阿部　裕二	東北福祉大学総合福祉学部	3
		社会保障制度の新たな動向Ⅱ	宮城県職員 仙台市職員	宮城県 仙台市	3
		コミュニケーション基礎論とICT 活用	坂本　泰伸	東北学院大学地域連携センター/教養学部	3
		デ―タによる社会調査・分析（社会疫学）Ⅰ	鈴木　寿則	仙台白百合女子大学人間学部	3
	必須理論	デ―タによる社会調査・分析（社会疫学）Ⅱ	鈴木　寿則	仙台白百合女子大学人間学部	3
		デ―タによる社会調査・分析（ライフスト―リ―聞き取り）Ⅰ	黒坂　愛衣	東北学院大学経済学部	3
		デ―タによる社会調査・分析（ライフスト―リ―聞き取り）Ⅱ	黒坂　愛衣	東北学院大学経済学部	3
		地域の施策と資源理解Ⅰ	西塚　国彦	宮城県社会福祉協議会	3
		地域の施策と資源理解Ⅱ	岩渕　徳光	仙台市社会福祉協議会	3
		地域社会とCSR（企業の社会的責任）	矢口　義教	東北学院大学経営学部	3
		組織運営	和田　正春	東北学院大学教養学部	3
		地域福祉活動計画Ⅰ	岩渕　徳光 佐々　利春	仙台市社会福祉協議会 富谷市社会福祉協議会	3
	必須	地域福祉活動計画Ⅱ	増子　正	東北学院大学教養学部	3

必修科目	中間報告会（グル―プワ―ク）		渡邊　圭	東北学院大学地域連携センター	3
	最終報告会（グル―プワ―ク）		渡邊　圭	東北学院大学地域連携センター	3
選択科目	実践技法	地域福祉とファンドレイジングⅠ	久津摩　和弘	一般社団法人日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET	3
		地域福祉とファンドレイジングⅡ	久津摩　和弘	一般社団法人日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET	3
		協働の手法Ⅰ	遠藤　智栄	地域社会デザイン・ラボ	3
		協働の手法Ⅱ	遠藤　智栄	地域社会デザイン・ラボ	3
		ファシリテ―ションの実際とワ―クショップ運営	渡邉　一馬	一般社団法人ワカツク	3
		ファシリテ―ショングラフィック	石塚　直樹	東北学院大学地域連携センター	3
		災害ボランティア論	渡邊　圭	東北学院大学地域連携センター	3
		災害ケースマネジメント	鴇田　栄一	宮城県社会福祉協議会	3
		健康格差論	鈴木　寿則	仙台白百合女子大学人間学部	3
		傾聴の技法	阿部　重樹	学校法人東北学院	3
		コミュニティビジネス	吉澤　武志	一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会	3
		コミュニティ設計	手島　浩之	有限会社都市建築設計集団/UAAP	3
		東日本大震災と地域福祉	真壁　さおり	社会福祉士	3
		臨床宗教学（聴くことの力―カフェでもんくの事例から）	金田　諦應	曹洞宗通大寺住職	3
	実践	リスクコミュニケーション	大谷　みち子	福島県浪江町役場	3

選択科目		発達障害者支援	皆川　美雪	宮城学院女子大学学生相談室	3
	特論演習	特論演習ⅠA（高齢者支援と地域社会）	西澤　英之	宮城県社会福祉士会	3
		特論演習ⅡA（生活困窮者支援と地域社会）	後藤　美枝	一般社団法人パーソナルサポートセンター	3
		特論演習ⅢA（子育て支援と地域社会）	小岩　孝子	特定非営利活動法人 FOR YOU にこにこの家	3
		特論演習ⅣA（障害者支援と地域社会）	伊藤　清市	社会福祉法人　宮城県障がい者福祉協会	3
		特論演習ⅥA（精神障害者支援と地域社会）	菅原　里江	東北福祉大学総合福祉学部	3
		特論演習ⅧA（SDGs と地域社会）	紅邑　晶子	一般社団法人 SDGsとうほく	3
	事例研究	事例研究ⅠA（まちづくりとコミュニティソーシャルワーク：仙台市を事例として）	大久保　環	仙台市社会福祉協議会	3
		事例研究ⅠB（まちづくりとコミュニティソーシャルワーク：南三陸町を事例として）	高橋　吏佳	南三陸町社会福祉協議会	3
		事例研究ⅡA（女川町を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	千葉　信二	女川町社会福祉協議会	3
		事例研究ⅡB（柴田町を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	相原　美由紀	柴田町地域包括支援センター	3
		事例研究Ⅳ（地域活動を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	増田　恵美子	Narita マルシェ	3
		事例研究Ⅴ（栗原市若柳を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	高橋　由利	栗原市社会福祉協議会	3
		事例研究Ⅵ（原発事故被災地を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	ダクルス久美	よりあいコミュニティソーシャルワークス	3
		事例研究Ⅶ（仮設住宅・災害公営住宅を舞台としたコミュニティソーシャルワーク）	齊藤　康則	東北学院大学経済学部	3

(3)　修了要件

本プログラムは、以下の 3 つを修了要件として定めている。

① 120 時間以上（必修科目 57 時間、選択科目 63 時間以上）の講義を履修し、実出席時間が 96 時間以上であること（欠席時は、授業収録映像を視聴する）

② 履修科目ごとに提出するミニッツペーパーの点数が合格ライン以上であること
③ 最終報告会で合格の評価を得ること

(4) フォローアップ授業科目

ＣＳＷスキルアッププログラムでは、修了生に対する学びのサポートとして、2018年度より「フォローアップ授業科目」制度を設けている。

2022年度は、以下の16科目を、フォローアップ授業科目として、修了生にも公開した。

2022年度　フォローアップ授業科目一覧

科目名	担当講師	担当講師所属	時数
社会保障制度の新たな動向Ⅱ	宮城県職員 仙台市職員	宮城県 仙台市	3
コミュニケーション基礎論とICT活用	坂本　泰伸	東北学院大学地域連携センター/教養学部	3
災害ボランティア論	渡邊　圭	東北学院大学地域連携センター	3
コミュニティビジネス	吉澤　武志	一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会	3
コミュニティ設計	手島　浩之	有限会社都市建築設計集団/UAAP	3
東日本大震災と地域福祉	真壁　さおり	社会福祉士	3
臨床宗教学（聴くことの力―カフェでもんくの事例から）	金田　諦應	曹洞宗通大寺住職	3
リスクコミュニケーション	大谷　みち子	福島県浪江町役場	3
発達障害者支援	皆川　美雪	宮城学院女子大学学生相談室	3
特論演習ＩＡ（高齢者支援と地域社会）	西澤　英之	宮城県社会福祉士会	3
事例研究ＩＢ（まちづくりとコミュニティソ―シャルワ―ク：南三陸町を事例として）	高橋　吏佳	南三陸町社会福祉協議会	3
事例研究ⅡＡ（女川町を事例としたコミュニティソ―シャルワ―ク）	千葉　信二	女川町社会福祉協議会	3
事例研究Ⅳ（地域活動を事例としたコミュニティソ―シャルワ―ク）	増田　恵美子	Narita マルシェ	3
事例研究Ⅴ（栗原市若柳を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	高橋　由利	栗原市社会福祉協議会	3
事例研究Ⅵ（原発事故被災地を事例としたコミュニティソ―シャルワ―ク）	ダクルス久美	よりあいコミュニティソーシャルワークス	3

事例研究Ⅶ（仮設住宅・災害公営住宅を舞台としたコミュニティソーシャルワーク）	齊藤　康則	東北学院大学経済学部	3

4.　新型コロナウイルス感染症対策による開講形態の変更等

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020 年度はプログラム内容のすべてを遠隔開催にて行い、2021 年度は、開講式、履修証明書授与式を含め、プログラム内容の大部分を遠隔開催とした。2022 年度は正規授業が原則対面で行われたことから、開講式、履修証明書授与式を含め、すべてのプログラムを対面で行った。

5.　広報活動、受講生等の状況

(1)　広報活動等の状況

①　募集要項（パンフレット）の作成

開講科目・担当講師の情報を掲載したＣＳＷスキルアッププログラム募集要項（パンフレット）を毎年度制作している。募集要項は、名義後援団体に加え、宮城県内の社会福祉法人や地域包括支援センター等に送付している。送付先団体からは毎年度受講申込みがあり、一定の効果があると考えられる。

②　名義後援団体への広報

ＣＳＷスキルアッププログラムは、宮城県、仙台市を始め、下表記載の 40 団体から名義後援を受けている。全ての名義後援団体に対し、継続的に募集要項等を送付し、広報活動を行っている。名義後援団体からは、プログラム運営上の支援のみならず、所属職員等から毎年度複数名の受講申込みがあり、広報活動の効果が認められる。

2022 年度　名義後援団体

宮城県	名取市社協	富谷市社協	亘理町社協	色麻町社協
仙台市	角田市社協	蔵王町社協	山元町社協	加美町社協
宮城県社協	多賀城市社協	七ヶ宿町社協	松島町社協	涌谷町社協
仙台市社協	岩沼市社協	大河原町社協	七ヶ浜町社協	美里町社協
石巻市社協	登米市社協	村田町社協	利府町社協	女川町社協
塩竈市社協	栗原市社協	柴田町社協	大和町社協	南三陸町社協
気仙沼市社協	東松島市社協	川崎町社協	大郷町社協	仙台市地域包括支援センター連絡協議会
白石市社協	大崎市社協	丸森町社協	大衡村社協	みやぎ生活協同組合

※上表における「社協」は社会福祉協議会を表す

③　本学ウェブサイトでの広報

本プログラムの運営主体である、本学地域連携センターのウェブサイト*内で募集要項のデータを掲載するなど、プログラムの紹介を行っている。

④　マナパスへの掲載

リカレント教育等の情報発信サイト「マナパス**」に、毎年度最新の講座情報を掲載している。全国のリカレント教育情報等をまとめたサイト上で広報を行うことにより、本プログラムの知名度上昇が期待される。

⑤　取材対応による記事の掲載

2022 年度は下記に関する取材依頼の対応を行い、記事掲載を行った。

・AERA ムック「大学院・通信制大学 2023」への記事掲載

・株式会社ライボ「JobQ」取材対応による記事掲載

・UC カード情報誌『てんとう虫』への記事掲載

それぞれ、広く一般に開かれた媒体であり、本プログラムの知名度上昇が期待される。

(2)　受講生等の状況

①　ＣＳＷスキルアッププログラム受講生

2022 年 1 月から募集要項を公開して 4 月 10 日までの期間受講生募集を行い、10 名の受講申込み者があった。審査の結果、10 名全員が書類審査を通過し、ＣＳＷスキルアッププログラム受講生として認められた。

ＣＳＷスキルアッププログラム　申込み者数・受講生数

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
申込み者数 （うち、本学学生数）	18 名 （1 名）	15 名 （1 名）	10 名 （0 名）	11 名 （1 名）	9 名 （1 名）	10 名 （0 名）	10 名 （0 名）
受講生数 （うち、本学学生数）	14 名 （0 名）	14 名 （1 名）	10 名 （0 名）	11 名 （1 名）	8 名 （1 名）	10 名 （0 名）	10 名 （0 名）

②　フォローアップ授業科目聴講生

2022 年度は 16 科目をフォローアップ授業科目として設置し、延べ 3 名の申込みがあり、2 名が聴講した。

* 東北学院大学地域連携センター　https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/iprc/program-2

** マナパス　https://manapass.jp/

6. 自己点検・評価体制等について

本プログラムは、毎年度自己点検・評価を実施することにより、その PDCA サイクルを実行し、プログラム内容や運営体制等に関する質の向上を図る。

(1) 自己点検・評価の体制

毎年度の受講/修了状況や、担当教員・受講生からの意見等に基づき、教育カリキュラムの内容や運営体制等、本プログラム全般に関する自己点検・評価を行う。

本プログラムの意思決定機関であり、学外の外部委員を含むＣＳＷスキルアッププログラム運営会議及び地域連携センター会議において、点検・評価を行い、その結果は学内会議を通じて学長に報告する。

(2) 自己点検・評価の公表

自己点検・評価の結果については、本学地域連携センターのウェブサイト等で公表する。

7. 受講生（修了生）アンケート実施結果

2022 年度ＣＳＷスキルアッププログラム修了生を対象に以下の通り、アンケート調査を実施した（回収期間：2023 年 6 月 30 日～7 月 14 日。回答数：対象 9 名のうち 7 名（回収率：78%）。

1. *2022 年度のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム（以下、本プログラム）全体に対する満足度を教えてください。（選択式/必須回答）*

■満足している　→４名　　■どちらかといえば満足している　→３名

■どちらかといえば不満がある　→０名　　■不満がある　→０名

2. *どのような成長・効果を期待して本プログラムを受講されましたか。以下の選択肢の中から、当てはまるものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）*

■CSW や類する役割での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得　→４件

■所属する団体での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得　→３件

■新たな分野・領域に関する知識・スキル等の習得　→４件

■ファシリテーション能力等、CSW や類する役割に求められる特定のスキルの習得/向上　→５件

■ICT 活用等、業務全般をより円滑に進められるスキルの習得・向上　→０件

■CSW や類する役割に必要な最新知識の習得　→２件

■外部の組織とのネットワーク作り　→２件

3.　*前問で回答いただいた内容を習得することはできましたか。（選択式/必須回答）*

■十分に習得できた　→１名　　■どちらかといえば習得できた　→５名

■どちらかといえば習得できなかった　→０名　　■全く習得できなかった　→０名

■現時点では業務と直接関係がないため、習得できたか否かの判断ができない・難しい　→１名

4.　*本プログラムの受講により、ご自身の成長や、業務への良い効果を感じるかについて教えてください。（選択式/必須回答）*

■とても感じる　→４名　　■どちらかといえば感じる　→２名

■どちらかといえば感じない　→０名　　■全く感じない　→０名

■現時点では感じないが、今後効果を実感できると思う　→１名

5.【設問４で「とても感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した方のみ】

※回答対象者６名

本プログラムの受講により、自身の成長や業務への良い効果を「とても感じる」または、「やや感じる」とお答えいただいた方にお伺いします。自身の成長した点や良い効果をもたらしている点について、具体的に教えてください。（記述式/自由回答）

■プログラムで受講した講話の中で自分が詳しくなかった疾病・障害などの基礎知識をはじめ地域支援活動の事例を学ぶことができたため、実際の業務の中で活用できる知識の幅が広がったと思います。

■支援が必要と考えられる個人や地域に対して関わる際の視点、考え方について深められた。

■物事の視点を広く持とうという考えやまとめ方の選択肢が広がり、業務一つ一つを多角的に捉えられるようになってきたと感じる。

■自身の担当業務を遂行する際に、CSW としての知識も併せて広い視野で支援にあたるようになった。

■地域支援の事例について実践者からの話を聞くことができてよかった。良いことは、担当地域で事例提供できている

■社会福祉は誰もが必要な事柄であり、関心を持つべきものであるが、多くのことが一般社会で知られていないと感じた。自分としても新たなことを学ぶことができ、現代社会での不条理に気づくことができた。

6. 【設問４で「とても感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した方のみ】

※回答対象者６名

本プログラムの受講により、自身の成長や業務への良い効果を「とても感じる」または、「やや感じる」とお答えいただいた方にお伺いします。自身の成長や業務への良い効果に関連して、特に役立った講座や内容について、具体的に教えてください（記述式/自由回答）

■特に、地域活動の事例についてお話しいただいたプログラムについては、自分の限られた経験の中ではなかった、地域活動のヒントや先進事例として、自分が関わらせていただいている地域の方へ情報として提供できた場面などがありました。

■村山氏、真壁氏、ダクルス氏、久津摩氏、大谷氏、菅原氏、千葉氏

■傾聴の技法、データによる社会調査、ファシリテーショングラフィック、ファンドレイジング

■どの講義でも必ず新しい知見が得られたので興味深かったです。また、それまでに業務を通じて感じていたセオリーが講義内で紹介されることも多く、自分の業務への自信にもなりました。

■ファシリテーションの講座、村山先生の授業、真壁さんの震災と地域福祉

7. *授業を受講するにあたってのサポート体制に対する満足度はいかがでしたか。（選択式/必須回答）*

■満足している　→６名

■どちらかといえば満足している　→１名

■どちらかといえば不満がある　→０名

■不満がある　→０名

8. *現行のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムでは、修了要件のひとつに「120 時間以上の講義を履修すること」を設けています。この要件を緩和できると想定した場合、「120 時間以上」に対する実感として最も近いものを選んでください。（選択式/必須回答）*

■適切　→２名

■負担は大きいが、必要な時間数であるため減らさない方が良いと思う　→４名

■負担が大きいため、減らした方が良いと思う　→１名

9. 【設問 8 で「負担が大きいため、減らした方が良いと思う」と回答した方のみ】

※回答対象者１名

「120 時間以上の履修時間」について「負担が大きいため、減らした方が良いと思う」とご回答いただいた方にお伺いします。2022 年度に受講された実感から、何時間程度が適切と思われるか教えてください。（選択式）

■60 時間程度（2022 年度の 1/2 の時間数）　→０名

■60 時間～90 時間程度（2022 年度の 1/2～3/4 の時間数）　→０名

■90 時間～110 時間程度（2022 年度の 3/4、または微減程度の時間数）　→１名

■その他　→０名

10. *本プログラムは、4 月に開講し、3 月に閉講（修了判定含む）するという 1 年間のプログラムとして開講しています。プログラムの開講期間について、以下の選択肢の中から、最も実感に近いものを選んでください。（選択式/必須回答）*

■適切　→３名

■負担は大きいが、必要な期間であるため短くしない方が良いと思う　→２名

■負担が大きいため、短くした方が良いと思う　→１名

■その他　→１名

【その他】の回答内容：短くしたほうが良いと思うが、履修総時間数との兼ね合いがあるため、履修総時間数をそのままに開講期間を圧縮したとして１日あたりの負担感が大きくならないのならば短くしたほうが良いと思う。

11. 【設問 10 で「負担が大きいため、短くした方が良いと思う」と回答した方のみ】

※回答対象者１名

「1 年間の開講期間」について「負担が大きいため、短くした方が良いと思う」と回答いただいた方にお伺いします。2022 年度に受講された実感から、どのくらいの開講期間が適切と思われるか教えてください。（選択式）

■６ヶ月程度　→１名

■６ヶ月以上１年未満　→０名

12. *コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムをお知りになられた経緯について、以下の選択肢の中から該当するものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）*

■マナパス　→０件

■本学のウェブページ　→０件

■所属する団体への本学からの郵送物等　→２件

■所属する団体内でのメール等でのお知らせ　→３件

■所属する団体内での口コミ　→３件

■所属【外】の団体からのメール等でのお知らせ　→０件

■所属【外】の団体の方からの口コミ　→０名

■その他　→１件

【その他】の回答内容：厚生労働省教育支援のＨＰ

13. *本プログラムの受講を同僚等周囲の方に勧めたいかについて、以下の選択肢の中から、該当するものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）*

■CSW や類する役割での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得が必要な方に勧めたい　→３件

■所属する団体での業務に関する全般的な（CSW の役割に限らない）知識・スキル・態度等が必要な方に勧めたい　→５件

■新たな分野・領域に挑戦する方に勧めたい　→１件

■ファシリテーション能力等、CSW や類する役割に求められる特定のスキルを習得・向上させたい方に勧めたい　→２件

■ICT の活用等、CSW の役割に限らない業務全般をより円滑に進められるスキルを習得・向上させたい方に勧めたい　→０件

■CSW や類する役割に必要な最新知識を身に付けたい方に勧めたい　→２件

■外部の組織とのネットワークを作りたい方に勧めたい　→２件

■受講を勧めたいとは思わない　→０件

■その他　→０件

14. *本プログラムでは、修了生のみなさんに一部授業を無料で公開する「フォローアップ授業科目制度」を設けています。この他に、修了生のみなさまを対象とした制度等で希望されるサポート体制等がありましたら、教えてください。（記述式/自由回答）*

■修了生同士の懇談会、最新情報にキャッチアップするためのお知らせ（メールマガジンや SNS 等で受講修了時点から大きく変わった事柄について参考文献を紹介する等）
■受講後５年や１０年たった修了生を対象にした振り返り講座など
■今までの修了生との交流する機会

15. *本プログラムで教えてほしかったこと（教育内容）がありましたら、ご自由にご回答ください。（記述式/自由回答）*

■支え合い活動や住民同士のつながりなどをコミュニティソーシャルワーカーがどのように関わっていくか、資源の見つけ方やサポート、連携の仕方について学びたかった。住民同士のつながりや気に掛け合い、支え合いなど、地域にあると嬉しい資源はどのようなものなのかをたくさんの事例をもとに学べる機会がもっとほしかったです。
■大阪などの先進的な csw の取り組み事例
■他都市の csw の実践例(関西など)

16. *本プログラムを受講して良かったこと、または有益だと感じる内容がありましたら、教えてください（教育内容、事務局体制等のプログラム全般に関する内容で結構です）。（記述式/自由回答）*

■講師の方によってはミニッツペーパーに意見や感想をフィードバックしてくれたのでありがたかった
■1 年間にわたっての長期間のプログラムであったため、受講途中でも予定に合わせて受講申請を変更できたのは良かったです。
■福祉分野外の専門職の方の講義は視野を広げる意味でもとても興味深かったです。グループワークでは各参加者それぞれの考え方の違いや理解の仕方の違いが知れて良かったと思います。
■講師陣や東北学院大学地域連携センター、他受講生とのつながりを持てたこと

17. *本プログラムを受講して困ったこと、または改善してほしいことがありましたら、教えてください（教育内容、事務局体制等のプログラム全般に関する内容で結構です）。（記述式/自由回答）*

■当日に電話連絡がつかないことがあったので、急遽欠席や遅刻などがある場合、対応方法を明記するなどしてほしい。シラバスと講義の日付の資料がたしか別々だったのでひとつになっているとよい（内容と日程都合で受講の可否を決めたいので）

■４月の申し込みの段階で各講義の年間の日程を可能な限り示して頂きたい。自分が既に参加できないカリキュラムは選択せずに申し込みができるのではないかと思います。

■ご自身の取り組みをお話しいただき、大変参考になった反面、csw としての絡みや考え方に落とし込むことが難しい科目もあった。

■特論演習（子育て支援と地域社会）では、講師の発言にかなり偏りがあり、受講生に悪影響だと感じた。同期の受講生も同じように感じており、反面教師としてはいい例だと捉えることもできるが、今後の講義内容として適切かどうか吟味していただきたい。

■リモート受講も一部認めてもらえるとありがたい

18. *その他、本プログラム全般に対し、ご意見、ご感想等がありましたら、ご自由にご回答ください。*

■ミニッツペーパーへのフィードバックや知りたい人には評定なども通知してはどうかと思った。

■今年度もご案内いただきましたが、フォローアップの研修会は今後も継続して案内いただきたいです。なかなか業務と重なり参加が難しい事が多いとは思いますが、継続して案内いただければと思います。

■幅広いカリキュラムになっており、とても充実した一年でした。ありがとうございました。

■ミニッツペーパーや講義資料がほとんど紙ベースなので、保管や管理が困難だった。ICT の活用の一例としてデータでの配布や提出も行えると良いと感じた。

※回答内容について、明らかな誤字・誤変換のみ事務局にて修正のうえ記載

※自由記述において、「特になし」に類する内容は記載せず

8. 自己点検・評価について（アンケート等に基づく次年度以降への変更・検討等）

「7. 受講生（修了生）アンケート実施結果」等に基づき、広報活動、教育カリキュラムの内容等について、改善、充実等を図る。

⑴ 自己点検・評価、ならびに次年度以降への改善、充実等

① 広報活動

本プログラムは、社会福祉協議会や地域福祉分野に従事する者を主な受講対象者として想定しているため、宮城県内の社会福祉協議会や他の社会福祉法人等を広報活動の主な対象としている。特に仙台市社会福祉協議会からは毎年度複数の受講申込みがあることから、広報活動については一定の効果があると評価できる。

しかしながら、社会福祉協議会を含む社会福祉法人のみを主な受講対象者として設定すると、より多くの受講生獲得は難しい。社会福祉法人等に対する着実な広報活動を継続しつつ、新たな受講生層（職業、居住地等）の開拓が今後も引き続き求められる。

2022 年度は、「CSW スキルアッププログラムの過去・現在・未来 - 開設 10 年に向けて - 」をテーマに 2023 年 2 月に CSW 公開研究会を開催した。受講生の派遣元や修了生が登壇したため、当日は講師、修了生、受講生複数名が参加をした。リカレント教育においては、修了生による組織内外での“口コミ”が、大きな影響力を持つと言われていることから、こういった取り組みによる広報活動を引き続き続けていきたい。

② 教育カリキュラム、授業内容等について

（ｉ） 教育カリキュラム全般について

「受講生（修了生）アンケート」の回答からもわかるように、本プログラム全体に対する満足度は非常に高い。本プログラムにおける教育カリキュラムの内容（設置科目等）については、毎年度効果検証を行い、改善を図っており、そのことが受講生の総合的満足度に結びついているものと評価できる。

（ⅱ） 実務家教員の配置について

実務家教員の積極的配置は、本プログラムの大きな特徴であり、受講生からも好評を得ているため、今後も継続すべきである。

社会福祉分野等における実務家教員の配置は、名義後援団体等からの厚い支援により実現できている。現在の名義後援団体との関係性を継続するとともに、他団体等との連携・協力の可能性についても、今後検討を行う。

（ⅲ） 学際性をもったカリキュラム構成等について

実務家教員の積極的配置に加え、学際性に富んだカリキュラム構成は本プログラムのもう一つの大きな特徴となっている。“学際性”は、コミュニティソーシャルワーカーの育成及びスキルアップを高等教育機関である本学が担うことの大きな意義であり、独自性とも言える。

9. 終わりに

ＣＳＷスキルアッププログラムは開設から 7 年目を終え、累計修了生数は 70 名を超える。本プログラムは開設以来、受講生アンケート等に基づき、絶えず教育カリキュラムの検証、改善を図ってきた。また、宮城県社会福祉協議会及び仙台市社会福祉協議会等との緊密な連携・協力関係を構築することにより、県内の社会福祉、地域福祉現場における最新の情報等を受講生に提供する努力を重ねてきた。

このように教育プログラムの改善サイクルを絶えず実行してきたことが、受講生の 1 年間の学習に対するモチベーションを保ち、高い修了率を維持することに繋がっている。毎

年度の修了生から、プログラム全体に対する高い満足度を得られていることも、その証左と言える。

「学び直し」の文言が、毎月のように雑誌の表紙を賑わせている例を挙げるまでもなく、「リカレント教育」や「社会人の学び直し」に対する、社会からの期待や要請は、今後さらに高まっていくことが予想される。本学においても、社会人教育への積極的な取組みが求められるであろう。

ＣＳＷスキルアッププログラムは、2023 年 9 月現在、本学が開講する唯一の履修証明プログラムである。本プログラムについては、自己点検・評価体制に基づく PDCA サイクルを絶えず実行することにより、引き続き改善、充実を図る。今後はさらに、本プログラムの運営により得られたリカレント教育の実施・運営に関するノウハウ等を蓄積し、本学における社会人教育の運営体制確立にも寄与することを目指していく。